

文 学 部

独語学独文学科

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16101 他	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ(文法・作文・会話・講読・L.L.)	必	1	各1	前期 後期	林田雄二 D. Herberg W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

ドイツ語学・独文学専攻の諸君は、ドイツ語をABCから始めて僅か4年ばかりの間に、ドイツ語でおこなわれる文学、言語学、ドイツ事情などの講義を理解し、また議論に参加し、最後には文献を相当自由に駆使して卒業論文を書き上げることができねばならない。このことは一見不可能に思えるかもしれない。しかし、学習者が興味と意欲をもってすれば、外国語習得の速度と効果はいくらでも高めることができ、目標を達成することは不可能ではない。

この1年間に、諸君は以後3年間の専門勉学の基礎工事をするのだが、それができるだけ効率よくなされるために、週六回のドイツ語の授業がある。しかし、この授業はあくまで諸君の自立的勉学を助けるものにすぎない。諸君自身の、授業時間の何倍もの自立的学習が無ければ、授業から十分な効果を引き出すことは不可能である。

週6回の授業は、ドイツ人と日本人の担当者によって、一貫した計画の下で行われる。

その目標とする点は、

- (1)教材に含まれる話し言葉と書き言葉を、まず具体的な能力として獲得することを通じて、日常レベルのドイツ語の構造と基礎的文法体系を把握すること。
- (2)ドイツ人によって話されるドイツ語を、正しく聞き取り、その意味を理解し、それに対してドイツ語で反応する能力を身につける。
- (3)正しい発音とイントネーションで、想定された日常の状況での会話能力を得ること。
- (4)話し言葉、書き言葉のいずれにおいても、音声と文字として正しく書く能力を得ること。(ディクテーション能力)
- (5)教材の中で提供される文や言い回しを、それに対応する日本語の文、言い回しに、できるだけ厳密に対応させる能力を得ること。
- (6)提供された文を、語の入れ換え、構造変換等によって、言い替え、拡大、応用する能力を養うこと。
- (7)様々のドイツ語テキストの基礎的読解力を養う。

以上の目的を達成するためには、授業の予習復習は言うに及ばず、それを越えた自立的な学習が必要不可欠である。

年間目標を考えた場合、授業への規則的かつ積極的な参加は、目的達成のための必要最低限の条件となる。

Wir wünschen Ihnen viel Erfolg!

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16121 16125	ドイツ学概説Ⅰ・Ⅱ	必	1	各1	前期 後期	E. Rucker 他
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 この講義は、1年次のドイツ語学習と平行して、ドイツに関する様々な分野についての基礎的な情報を伝達することを目的としている。

ドイツ語学習への刺激となるばかりでなく、第3年次以降に設けられている「ドイツ事情」、「ドイツ史」などの講義や、その他の特殊講義への入門となるものである。

【講義計画】 各テーマについて独語学独文学科のほぼ全教員が、交代で担当し、1つのテーマについて各3ないし4回があてられている。

1.-2.: 地理 (Rucker) 3.-4.: 文化1 (Rucker) 5.-8.: 歴史 (Szimpl)
9.-12.: 民俗学 (石井) 13.-16.: 文学 (生野) 17.-20.: 文化2 (Steitz) 21.-24.: 演劇 (林田)

【評価方法】 各担当の、レポートや筆記試験などの評価を総合して行う。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16131 16135	中級ドイツ語文法 I・II	必	2	各1	前期 後期	林田雄二
他の科目との関連	中級ドイツ語講読、中級作文				他学科履修 可	重複履修 不可

【講義内容】 一年次で習得した基礎的な文法知識を深化・拡大しそれを様々の状況の中で使用出来る能力を涵養する。

【講義計画】 1. “Lehr-und Übungsbuch der deutschen Grammatik” を使用するが、適宜、Duden “Die deutsche Grammatik” も使い一年次の文法知識の深化、拡大をめざす。
2. ドイツ語テキストを読んで、文章構造を解明し、文の書き換えなどの練習をする。
3. 習得した文法的知識を駆使して作文する。(口語体、文語体に留意)

【評価方法】 1. 授業への積極的な関与
2. 小テスト
3. 学期末テスト

【テキスト】 Schmitt Dreyer : Lehr-und Übungsbuch der deutschen Grammatik.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16141 16145	ドイツ語学概論 I・II	必	2	各1	前期 後期	原田武雄
他の科目との関連	ドイツ語学基礎演習				他学科履修 可	重複履修 不可

【講義内容】 基礎的な文法用語（概念）の考察。

【講義計画】 下記テキストを抜き読みしながら、日本語との対比を通じて理解を深める。話し合いたい項目：「ことば」（継承）と「ことばづかい」（創作）；「きまり」（習慣）と「しくみ」（理解）；「なぞり」（具象）から「織り上げ」（Text）へ；構文のはたらき；「名ざし」（掲題）と「言いのべ」（叙述）；名詞類と動詞類；「わかり合える」「はば」；「仲間うち」と「よそもの」；「うつろい」の姿；ことばの「正しき」と「美しき」。

【評価方法】 ドイツ語文の理解度を見る。

【テキスト】 Peter Eisenberg : Grundriß der deutschen Grammatik. ²1989, ³1994.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16151 16155	中級ドイツ語講読 I・II	必	2	各1	前期 後期	原田武雄
他の科目との関連					他学科履修 可	重複履修 不可

【テキスト】 I : Werner Bergengruen : Der spanische Rosenstock. (郁文堂)

II : Hans Carossa : Der große fließende Magnet. (郁文堂)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16161	ドイツ文学概論 I	必	2	1	前期	生野 芳徳
他の科目との関連	ドイツ文学基礎演習A・B			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 ドイツ文学研究法入門

【案内書】

【講義内容】 ドイツ文学研究のための不可欠の基礎知識を伝達することをによって、学生諸君の方法論的意識を高め、自立的な研究能力の基礎作りをすることがこの講義の目的である。「ドイツ文学基礎演習」では、作品を読み解く具体的な作業に重点が置かれるが、ここでは理論的な概観を行い、文学作品のテキストの特性と、個々の作品の特徴を記述するための基礎的な概念について学ぶ。ただし、作品のテキストを読まないでは具体的な理解が成立しないので、基礎演習とならんでかなりの量の原文を読みこなしていかなければならない。ドイツ語を始めて2年目であるから、ドイツ語の読解力の訓練の意味も当然ながらもつ。

【講義計画】 物語散文（小説）構造論の基礎知識と修辞学の基礎知識を伝達することを目指す。Textの種類（Wirklichkeitsbericht und epischer Bericht）、文学のジャンル、ドイツの物語理論の歴史概観、語り手と叙事的な距離（叙事的距離と「叙事的演劇」および叙事詩）、語りの状況（Erzählsituationen）、語りの視点（point of view）と「意識の流れ」、物語の時間構造、登場人物の話し方（Personenrede in der Erzählung）、修辞学の基礎知識。

【評価方法】 筆記試験とレポート。授業への欠席はマイナス評価の対象とする。

【テキスト】 プリントで配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16165	ドイツ文学概論 II	必	2	1	後期	生野 芳徳
他の科目との関連	ドイツ文学基礎演習A・B			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 ドイツ文学研究法入門

【講義内容】 ドイツ文学研究のための不可欠の基礎知識を伝達することをによって、学生諸君の方法論的意識を高め、自立的な研究能力の基礎作りをすることがこの講義の目的である。「ドイツ文学基礎演習」では、作品を読み解く具体的な作業に重点が置かれるが、ここでは理論的な概観を行い、文学作品のテキストの特性と、個々の作品の特徴を記述するための基礎的な概念について学ぶ。

【講義計画】 後期は、韻律論の基礎知識と演劇論の基礎知識を伝達することを目指す。テキストとは何か、文学作品と実用文書、文学のジャンル
韻律論とは何か、ドイツの韻律論の歴史
Versfuß, Verszeile, Strophe, Kadenz, Zesur, Reim 等の基礎知識、一部の定型詩などを具体的な例によって学ぶ。
演劇については、ドイツ演劇史と演劇論の歴史的概観をした後、演劇の構造にかかわる基礎的な概念を作品に即して学ぶ。

【評価方法】 筆記試験とレポート。授業への欠席はマイナス評価の対象とする。

【テキスト】 プリントで配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16171 16175	ドイツ語（視聴覚）I（A）・II（A）	必	2	各1	前 期 後 期	W. A. Steitz
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重複 履 修 不可

【講義内容】 Weiterführung der Konversations- und Kompositions(Aufsatz)übung aus dem ersten Studienjahr für Deutsch.
Heranziehung audiovisueller Lehrmaterialien.
Texte werden weitgehend selbst erarbeitet.

【講義計画】 1. Haupt-und Nebensatz
2. Präpositionen
3. Subjekt/Objekt-Umstellung
4. Stilübungen
5. Direkte und indirekte Vorsatzbeziehungen
6. Paranthese

【評価方法】 Schriftliche Prüfung : Fragen und Kompositionsaufgaben.

【テキスト】 Deutsch Aktiv Ib und eigene Mansukripte.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16172 16176	ドイツ語（視聴覚）I（B）・II（B）	必	2	各1	前 期 後 期	D. Herberg
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重複 履 修 不可

【講義内容】 Ausbildung aller Sprachfähigkeiten (Lesen, Schreiben, Hörverstehen und Sprechen) mit Schwerpunkt auf kommunikativen Übungen.

【講義計画】 Weiterführung des Lehrstoffs aus dem 1. Studienjahr (Konversation Anfänger).
Ergänzende Übungen zu Konversation Mittelstufe, unter Verwendung audiovisueller Materialien.

【評価方法】 Mündliche Abschlussprüfung über den gesamten Lehrstoff.
Zur Leistungsbeurteilung werden neben der Abschlussprüfung auch die Ergebnisse mündlicher Zwischentests, Hausaufgaben sowie die Beteiligung am Unterricht herangezogen.

【テキスト】 Deutsch Aktiv 2 + 3

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16181 16182	ドイツ文学基礎演習A・B	必	2	各2	前 期 後 期	生 野 芳 徳
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重複 履 修 不可

【講義内容】 「ドイツ文学概論」では理論的な概観が主眼となるが、ここでは具体的にテキストに即して作品を読み解く作業を行う。

【講義計画】 この授業は1学期で完結するので、詩、演劇、物語散文のそれぞれに3回ないし4回を充て、最初の一回は文献検索、レポートの書き方などの指導に充てる。
テキストの読解、解釈にあたっては、口頭発表と討論を重視する。

【評価方法】 筆記試験とレポート。口頭発表と討論への参加度。

【テキスト】 プリントで配布。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16185 16186	ドイツ語学基礎演習A・B	必	2	各2	前期 後期	石井賢治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 ドイツ語の詞論、文章論および文体論などの分野から特に重要と思われる事項を取り上げ、これについて解説ならびに練習問題を通して理解を深める。

【講義計画】 同格 (Apposition)、時称 (Tempus)、能動態と受動態 (Aktiv u. Passiv)、結合価 (Valenz)、冠飾句 (Erweiteres Attribut)、定動詞の配語 (Stellung des finiten Verbs) と枠外配置 (Ausklammerung)、言語の節約 (Sprachökonomie) と陳述の凝縮 (Verdichtung der Aussage)、一致 (Kongruenz) などを扱う。

【評価方法】 定期試験、出席状況、授業態度などから総合的に評価する。

【テキスト】 こちらで随時用意する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16191 16195	中級ドイツ語作文I・II	必	2	各1	前期 後期	E. Rucker
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 Einübung mittelschwerer Aufsätze. Verfassen und Darbieten einer Rede.

【講義計画】 Sommersemester :
Erklärung und Einübung einfacherer Aufsatztypen (Bildbeschreibung, Erzählung, Bericht, Briefarten)
Wintersemester :
Einführung schwierigerer Aufsatztypen (einfache Erörterung, Essay), Anleitung zur Erstellung eines Redetextes. Darbietung dieser Rede vor der Klasse.

【評価方法】 Selbstverfaßte Aufsätze während und am Ende des Semesters. Darbietung einer Rede. Beteiligung am Unterricht.

【テキスト】 Prints.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16201	ドイツ文学史A	必	2~3	2	前期	生野芳徳
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 この講義はドイツ語文学の歴史的流れについての、概観を与えることを目的とする。時代の世界観と文学のジャンル、様式および個々の作品との関係を重視して、可能な限りテキストに触れることを通じてそれぞれの時代における文学の存在理由とその実際に果たした役割について考えるきっかけを提供することを目指す。

下記の教材は、講義の中では部分的にしか読まないが、関連箇所をそのつど指示する。ドイツ語の読解力の養成をここでも各自で心掛けてもらいたい。各自で読んでであることを前提として講義と試験を行う。

【講義計画】 はじめの2回ほどで、古代ゲルマンの文学から古典主義時代にいたる全体的な概観を行う。
この講義の範囲は、古典主義までを目安として行う。

【評価方法】 筆記試験およびレポート。

【テキスト】 Wucherpfeffnig, Wolf: Geschichte der deutschen Literatur. (Ernst Klett Verlag)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16205	ドイツ文学史B	必	2~3	2	後期	生野芳徳
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 この講義はドイツ語文学の歴史的流れについての、概観を与えることを目的とする。時代の世界観と文学のジャンル、様式および個々の作品との関係を重視して、可能な限りテキストに触れることを通じてそれぞれの時代における文学の存在理由とその実際に果たした役割について考えるきっかけを提供することを目指す。

下記の教材は、講義の中では部分的にしか読まないが、関連箇所をそのつど指示する。ドイツ語の読解力の養成をここでも心掛けてもらいたい。各自で読んでであることを前提として講義と試験を行う。

【講義計画】 この講義は、古典主義の終焉と19世紀初頭の時代の都市化、工業化、政治化による文学の変質の状況から始めて、第二次世界大戦後の文学までを範囲とする。
はじめの3回ほどで、1830年から1950年にいたる全体的な概観を行う。

【評価方法】 筆記試験およびレポート。授業への欠席はマイナス評価の対象とする。

【テキスト】 Wucherpfeffnig, Wolf: Geschichte der deutschen Literatur. (Ernst Klett Verlag)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16211 16215	上級ドイツ語作文・翻訳I・II	必	3	各2	前期 後期	E. Rucker
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 Übersetzung japanischer dichterischer Prosa ins Deutsche. Einführung und Einübung des dialektischen Besinnungsaufsatzes. Podiumsdiskussion.

【講義計画】 Sommersemester: Übersetzungsübungen anhand von AKUTAGAWAs 'Der Spinnfaden'.
Wintersemester: Einübung der Erörterung. Rollenübernahme im Rahmen einer Podiumsdiskussion.

【評価方法】 Selbstverfertigte Aufsätze während und am Ende des Semesters. Abwicklung der Podiumsdiskussion. Beteiligung am Unterricht.

【テキスト】 Prints.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16221 16225	上級ドイツ語講読I・II (A)	必	3	各2	前期 後期	内藤克彦
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 Weizsäcker: Alle Grenzen Deutschlands sollen Brücken zu den Nachbarn werden,

u. a.

【講義内容】 ドイツ連邦共和国前大統領ヴァイツゼッカーの統一ドイツ記念演説文をテキストとし、その録音テープをも参照しながら、ドイツ文味読を主目標とする。テキストを読み終えたら、補充的なドイツ文化論の講義をする。

【講義計画】 前期においては精読を中心として、特に文章構造の文法的理解に努める。学生の音読、訳解のあとで補足的説明を加えながら読み進める。後期においては速読をも試みる。学生は課題文を分担して翻訳し、添削を受けた上で、授業中にそれを発表する。他の学生はその際に自己の訳文の正誤を確認すると同時に疑問点を質問する。質問にはまず当番学生が答えなければならない。授業形態は従って半ばゼミ式である。

【評価方法】 各学期末の定期試験（筆答）成績と授業時の学習状況による。

【テキスト】 Weizsäcker: Alle Grenzen Deutschlands sollen Brücken zu den Nachbarn werden他

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16222 16226	上級ドイツ語講読Ⅰ・Ⅱ（B）	必	3	各2	前期 後期	石井賢治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 16221・16225「上級ドイツ語講読Ⅰ・Ⅱ（A）」と同じテキストを歩調を合わせて読み進めていく予定なので、そちらを参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16251 16261 16271 16281	独文演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	必	3・4	各2	前期	石井賢治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 現代ドイツ語の傾向

【講義内容】 近年ドイツでPeter Braun: Tendenzen in der deutschen Gegenwartssprache. Stuttgart 1993³. Karl-Ernst Sommerfeldt: Entwicklungstendenzen in der deutschen Gegenwartssprache. Leipzig 1988. という著書が出版されている。これらの記述に基づき現代ドイツ語の傾向といわれる現象の幾つかに検証を加えたい。

【講義計画】 （前期）3・4年生共に上掲の書、とくにPeter Braun 1993³の記述から例えば「文の領域での傾向」や「語彙における傾向」の幾つかを取り上げ、実際に調べて期末に（中間）発表する。（後期）3年生は前期のテーマをさらに深く調べて、学期末にレポートとして提出する。4年生は各自選んだ卒論テーマに取り組み、中間発表を行うこととする。

【評価方法】 レポート、定期試験、出席、授業態度などから総合的に評価する。

【テキスト】 こちらで必要に応じてコピーを用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16252 16262 16272 16282	独文演習 I・II・III・IV	必	3・4	各2	前 期 後 期	E. Rucker
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 Ausgewählte Dichtungen Josephs von Eichendorff. Der Versuch eines Romantikers, die Romantik zu überwinden.

【講義計画】 Sommersemester : Gemeinsame Interpretation der Novellen 'Das Marmorbild' und 'Aus dem Leben eines Taugenichts'.
Wintersemester : Fortsetzung. Eichendorffs Lustspiel 'Die Freier' und ausgewählte Lyrik.
Anleitung zur Verfassung der schriftlichen Graduierungsarbeit.

【評価方法】 Referate während des Semesters, Tests, Schlußexamen.

【テキスト】 Eichendorff, Sämtliche Erzählungen (Goldm, Klassiker, TB)
Eichendorff, Die Freier (Reclam Nr. 7434)
Eichendorff, Gedichte (Reclam Nr. 7925)

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16253 16263 16273 16283	独文演習 I・II・III・IV	必	3・4	各2	前 期 後 期	R. Szimpl
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 20世紀ドイツ史の研究

【講義内容】 本演習は20世紀ドイツの歴史を研究対象とする。20世紀のドイツの歴史は2回の世界大戦、ナチス党独裁、2つの国家への分割、再統一などがもたらした大変激しい変化に特徴づけられていて、ヨーロッパだけではなく、世界にも大きな影響を及ぼしたものである。演習では、参加者が研究テーマを選択し、資料を集めて研究し、口頭発表、質疑応答、レポート作成などを通して20世紀のドイツについての理解を深めていく。

【講義計画】 本演習では、下記の項目のもと、20世紀のドイツ史を研究していく。

- ①20世紀ドイツ史の概観
- ②研究テーマの選択
- ③研究方法の説明
- ④口頭発表（質疑応答を含む）
- ⑤レポート提出

参加者が自分の研究分野だけでなく、皆のテーマに関心を持ち、幅の広い知識と理解を深めるために、発表の質疑応答への積極的な参加を期待する。

【評価方法】 演習時間内の参加姿勢、発表資料、発表内容、レポートから、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16254 16264 16274 16284	独文演習Ⅰ 4・Ⅱ 4・Ⅲ 4・Ⅳ 4	必	3・4	各2	前期 後期	生野芳徳
他の科目との関連	物語散文の分析と解釈			他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 19世紀の3人の代表的作家の作品から各1篇を選び、これを共通テキストとして、分析と解釈の実習を行う。

Th. Storm : Viola tricolor (1874)

P. Heyse : L' Arrabiata (1855)

G. Keller : Romeo und Julia auf dem Dorf (1855)

【講義計画】 上記作品をサンプルとして扱う。テキストの読解、分析、解釈の作業を共同で行う。発表と討論を重視する。上記作者の別の作品を各自1篇選んでレポートを作成してもらう。

【評価方法】 討論への参加、口頭発表、作品テキストの正確な読解、レポート。

【テキスト】 プリントで配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16255 16275 16265 16285	独文演習Ⅰ 5・Ⅱ 5・Ⅲ 5・Ⅳ 5	必	3・4	各2	前期 後期	横田 忍
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 ドイツ文学と水の精霊たち

【講義内容】 ハイネの『ローレライ』、フケーの『ウンディーネ』などドイツ文学には水の精霊たちが数多く登場する。

そこにはゲルマンの神々とキリスト教との、また自然と文明とのせめぎ合いが読み取れる。作品の中で水の精霊たちがどのような力を発揮し、どのように迫害を受けているか、また彼らの悲鳴は我々に何を告げているのであろうか。

文献学的な研究を基本として、民族学・宗教学的研究を加えて諸作品を分析・解釈したい。

【講義計画】

- 1) 『ヴァッサーマン』、『ローレライ』などの民謡
- 2) 『メルジーネ』『ムンメル湖』などの伝説
- 3) 『ウンディーネ』やラインメルヘン(プレントナー)などの創作メルヘンや小説
- 4) 『ウンディーネ行く』(バッハマン)など現代作品
- 5) 『精霊物語』(ハイネ)
- 6) ヨーロッパや日本の文学作品や精霊の比較

【評価方法】 発表、レポート、試験などの総合評価

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16256 16266 16276 16286	独文演習 I 6・II 6・III 6・IV 6	必	3・4	各2	前期 後期	W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 Politische Sprache

【講義内容】 Dieses Seminar dient der Betreuung von Diplomanden. Die Ausformungshilfe für die Examensarbeit, sowie die entsprechende inhaltliche Beratung wird ergänzt durch Übungen auf allgemeinen Feldern der politischen und öffentlichen Sprache. Hierbei ist besonders auf Sprachneuschöpfungen, Anglizismen und andere Einflüsse aus internationalen technischen und wirtschaftlichen Bereichen zu achten.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16257 16267 16277 16287	独文演習 I 7・II 7・III 7・IV 7	必	3・4	各2	前期 後期	内藤克彦
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 シラーの戯曲研究

【講義内容】 シラーの『マリア・ステュアート』を題材として、戯曲作品の構成と内容の分析方法について学ぶ。この作品はシラーの戯曲の中で最も形式の整ったものである。戯曲の構成を学ぶ上で格好のものである。内容上も、世界史の中でこの題材ほど人間学的興味をそそるものは少ないであろう。世界的転換期を対照的な形で生き抜かなければならなかったエリザベスとマリアの内面に深く迫ったシラーの円熟した手法から、学生は多くのことを学ぶことができるであろう。

【講義計画】 前期においては、『マリア・ステュアート』の構成と内容について、まず作品を読みながら考え、そのあとで戯曲作品の分析方法を検討する。
後期においては、学生各自が前期期間と夏期休暇中に独自に研究したことの成果を発表し、それに基づいて質疑応答を通して文学作品の研究方法について考える。

【評価方法】 レポートによる。

【テキスト】 シラー：『マリア・ステュアート』（レクラム文庫）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16601 16605	中級ドイツ語会話 I (A)・II (A)	選	2	各2	前期 後期	W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 Konversations- und Kampositions(Aufsatz)übungen in Weiterführung des ersten Studienjahres.
Textübungen
Kampositionsübungen : Leichtere Aufsatzübungen
Übung zur Herstellung eigener Texte

【講義計画】 1. Texte und kommunikative Aufgaben
2. Konjugation und Modalverben

3. Wiederholung Präteritum
4. Subordination
5. Unregelmäßige Verben
6. besondere Objektbeziehungen
7. Nebensätze
8. Texte und kommunikative Aufgaben - einzelne Felder
 8. 1. Beschreibung einer Wohnung
 8. 2. Beschreibung einer Situation auf dem Bahnhof
 8. 3. Kaufsituation - einzelne Branchen
 8. 4. Wohnungsanzeigen
 8. 5. Essen und Trinken in der Bundesrepublik
9. Passiv
10. Modalverben : Wiederholung
11. Verb und Ergänzung : Wiederholung
12. Antrag auf Aufenthaltserlaubnis
Formular und Amtsdeutsch
13. Konjunktiv I
14. Konjunktiv II
15. Konditionalsatz
16. Finalsatz
17. Konzessivsatz
18. Kausalsatz

【評価方法】 Schriftliche Prüfung : Sätze ergänzen/Diktat/Komposition

【テキスト】 Gerd Neuner/Theo Scherling/Reiner Schmidt/Heinz Wilms : Deutsch aktiv Neu IB, Berlin usw. Langenscheidt 1994.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16611 16615	中級ドイツ語会話 I (B)・II (B)	選	2	各2	前期 後期	D. Herberg
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【講義内容】 Ausbildung aller Sprachfähigkeiten (Lesen, Schreiben, Hörverstehen und Sprechen) mit Schwerpunkt auf kommunikativen Übungen.

【講義計画】 Fortsetzung des im 1. Studienjahr begonnenen Lehrstoffs.

【評価方法】 Schriftliche Abschlussprüfung über den gesamten Lehrstoff.
Zur Leistungsbeurteilung werden neben der Abschlussprüfung auch die Ergebnisse mündlicher Zwischentests, Hausaufgaben sowie die Beteiligung am Unterricht herangezogen.

【テキスト】 Deutsch Aktiv Neu 1B, 1C und Deutsch Aktiv 2 ergänzt durch eigene Materialien.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16631	ドイツ史	選	3・4	2	前期	R. Szippel
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 ドイツ近代史 (18世紀～19世紀のドイツ)

【講義内容】 ドイツの近代史は、大変激しい政治・社会・経済の変化に特徴づけられている。また、19世紀の国家統一や勢力拡大、帝国主義はヨーロッパの歴史だけでなく、世界の歴史にも大きな影響を及ぼしたものである。
講義では18世紀からドイツ帝国時代までのドイツの歩みをたどる。それぞれの時代の主な動きに焦点を合わせ、近代ドイツ社会の成立を考察していく。主なテーマとしては、ナショナリズムと統一

の問題、自由主義と民主主義の発展、ドイツ帝国の成立とその政治的・社会的構造、国際関係などを取り上げて、近代ドイツ社会の歴史の流れについて理解を深めていく。

【講義計画】 講義では次の順序で、18世紀からドイツ帝国時代までのドイツ史の主な動きを考える。

- ①神聖ローマ帝国の構造、国境と民族の問題
- ②プロイセンの興隆
- ③フランス革命、ナポレオン帝国の影響
- ④Vormärz（3月革命前期）の政治、社会、経済
- ⑤1848年3月の革命
- ⑥ドイツの統一、ドイツ帝国の成立
- ⑦ドイツ帝国時代の経済、政治、社会
- ⑧ドイツ帝国時代の国際関係 [ビスマルク体制・Weltpolitik（世界政策）]
- ⑨第一次世界大戦とドイツ帝国の崩壊

【評価方法】 学期中提出一回のレポート・期末試験・授業への参加姿勢によって評価する。

【テキスト】 木谷 勤、望田幸男著『ドイツ近代史』（ミネルヴァ書房）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
16632	ドイツ史	選	3・4	2	後期	R. Szimpl		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	可

【副題】 ドイツ近代史（20世紀のドイツ）

【講義内容】 ドイツの近代史は、大変激しい政治・社会・経済の変化に特長づけられている。特に、20世紀のナチス党の独裁政治と国際政策、第二次世界大戦、敗戦後の分割を通して、ヨーロッパの歴史だけでなく、世界の歴史にも大きな影響を及ぼしたものである。講義では、ワイマル時代から東西統一までのドイツの歩みをたどる。それぞれの時代の特長に焦点を合わせて、近代ドイツの成立を考察していく。主なテーマとしては、ワイマル共和国時代、ナチス独裁時代、第二次世界大戦後のドイツ、などをとりあげて、近代・現代ドイツ社会の歴史についての理解を深めていく。

【講義計画】 講義では、次の順序で、ワイマル時代から東西統一までのドイツ史の主な動きを考察する。

- ①ドイツ帝国の崩壊、ワイマル共和国の成立
- ②ワイマル共和国の政治・経済体制
- ③ワイマル共和国の社会
- ④ワイマル共和国の崩壊とナチス党の権力掌握
- ⑤ナチスドイツの経済
- ⑥ナチスドイツの社会、反ナチス運動、ユダヤ人の虐殺
- ⑦ナチスドイツ外交政策と第二次世界大戦
- ⑧敗戦、占領下のドイツ、ドイツの分割
- ⑨2つのドイツ、統一ドイツ

【評価方法】 学期中提出一回のレポート・期末試験・授業への参加姿勢によって総合的に評価する。

【テキスト】 木谷 勤、望田幸男著『ドイツ近代史』（ミネルヴァ書房）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
16635 16636	ドイツ思想	選	3・4	各2	前期 後期	加藤泰史		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	可

【副題】 18世紀の思想空間 —— 「啓蒙主義」の諸相 ——

【講義内容】 この講義では、18世紀の思想空間を特徴づける運動として、「啓蒙主義（Aufklärung）」を主

題的に取り上げて、「ドイツ啓蒙主義」を「スコットランド啓蒙主義」および「フランス啓蒙主義」との関係の中で考察する。前期には、まず「スコットランド啓蒙主義」の代表として、A. スミスとD. ヒュームの思想を取り上げて検討し、さらに「フランス啓蒙主義」の代表としてD. デイドロとJ.-J. ルソーを取り上げ（ルソー自身はロマン主義の先駆でもある）、これらの啓蒙思想が「ドイツ啓蒙主義」いかなる影響を及ぼしたかを論じる。後期には、カントの「啓蒙」理解[『啓蒙とは何か』(1784年)]の分析を中心に置きながら、ハーマン・ヘルダー・レッシング・メンデルスゾーン・シラー等の「啓蒙」理解を検討することによって「ドイツ啓蒙主義」を総括する。

- 【講義計画】
- (1)「プロテスタンティズム」と「啓蒙主義」
 - (2)「スコットランド啓蒙主義」・1 — D. ヒュームの思想
 - (3)「スコットランド啓蒙主義」・2 — A. スミスの思想その他
 - (4)「フランス啓蒙主義」 — D. デイドロと百科全書派の思想
 - (5)「啓蒙主義」と「ロマン主義」の間で — J.-J. ルソーの思想
 - (6)「スコットランド啓蒙主義」・「フランス啓蒙主義」と「ドイツ啓蒙主義」
 - (7)カントと「ドイツ啓蒙主義」
 - (8)「ドイツ啓蒙主義」から「ドイツ・ロマン主義」へ

【評価方法】 講義中の聴講態度・質疑応答・筆記試験の成績などから総合的に評価する。

【テキスト】 後期のテストとして「レクラム文庫」の“Was ist Aufklärung?”を使用する予定である。参考文献については講義中に指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16641 16642	ドイツ文学特殊講義	選	3・4	各2	前期 後期	金子章
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 近代ドイツ叙情詩の展開

【講義内容】 ゲーテから現代にいたる近代ドイツ叙情詩の展開を追ってみたい。作品を学生諸君と一緒に読みながら、あわせてドイツ文学の歴史を俯瞰したい。

【講義計画】

1. 講義で取り上げる主な詩人は、ゲーテ、アイヒェンドルフ、ハイネ、リルケ、トラークル、アイヒ、ツェラーンなど。
2. 自然、近代の心、ユトバなどの、叙情詩における役割と意味。

【評価方法】 講義であるが、作品は学生諸君と一緒に読む。その時の教室における学生諸君の発表と、試験期に課するレポートに基づいて評価する。

【テキスト】 1. 独和辞典 2. 『増補ドイツ文学案内』（岩波文庫別冊3）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16643	ドイツ文学特殊講義	選	3・4	2	前期	生野芳徳
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 ドイツの物語理論に照らして見た19世紀の小説

【講義内容】 Fr. StanzelやK. Hamburgerの物語理論を踏まえて、19世紀のドイツの小説を具体的に検討し、これらの理論の作品解釈にとっての有効性を検討する。

【講義計画】 前半は上記の理論を中心として、物語理論における重要な点を取り上げて整理し、後半では、その過程で参加者との討論を経て選択された作品に即して具体的に検討する。

【テキスト】 Fr. Stanzel, Typische Erzählsituation

Käte Hamburger, Die Logik der Dichtung

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16644	ドイツ文学特殊講義	選	3・4	2	後期	生野芳徳
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ドイツの物語理論に照して見た19世紀の小説

【講義内容】 J.H. Petersen : Erzählssysteme. Eine Poetik epischer Texteを読む作業を中心に据えて、物語理論の可能性を検討する。

【テキスト】 J.H. Petersen, Erzählssysteme. Eine Poetik epischer Texte.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16651 16652	ドイツ文化特殊講義	選	3・4	各2	前期 後期	W. A. Steitz
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 Gesellschaft und Politik in Deutschland.

【講義内容】 In dieser Spezialvorlesung wird eingangs die historische Entwicklung der Gesellschaftsstrukturen im deutschsprachigen Raum verdeutlicht. Schließlich sollen die heutigen gesellschaftlichen Ausformungen Deutschlands in ihrer Interdependenz zum europäischen und nicht-europäischen Raum analysiert werden. Stratifikation, politisch-soziale Abhängigkeiten und der gesamte Raum der Sozialpolitik sind zu berücksichtigen.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16661 16662	ドイツ語学特殊講義	選	3・4	各2	前期 後期	石井賢治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ドイツ語の語彙について

【講義内容】 とくに語彙の拡大に関わる領域、すなわち「語形成」ならびに「語の借用」を取り上げ、授業を進めていきたい。

【講義計画】 (前期) 語形成法の種類、語形成の問題点などを取り上げる
(後期) 語の借用、すなわち外来語を取り上げたい

【評価方法】 定期試験、出席状況、授業態度などから総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じて随時こちらで用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16671 16675	上級ドイツ語会話 I (A)・II (A)	選	3・4	各2	前期 後期	D. Herberg
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【講義内容】 Ausbildung aller Sprachfähigkeiten (Lesen, Schreiben, Hörverstehen und Sprechen) mit Schwerpunkt auf kommunikativen Übungen.

【講義計画】 Weiterführung des Lehrstoffs aus dem 2. Studienjahr.

【評価方法】 Mündliche Abschlußprüfung über den gesamten Lehrstoff.
Zur Leistungsbeurteilung werden neben der Abschlußprüfung auch die Ergebnisse mündlicher Zwischentests, Hausaufgaben sowie die Beteiligung am Unterricht herangezogen.

【テキスト】 Nach Absprache mit den Teilnehmern.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16691 16695	商業ドイツ語 I・II	選	3・4	各2	前期 後期	W. A. Steitz
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【講義内容】 Dieses Seminar behandelt Texte, die sich mit Wirtschaftsphänomenen – etwa mit folgenden Bereichen : Bedürfnisstruktur, Verbrauch und Produktion, Markt, Nachfrage und Angebot, Betriebsformen und Wirtschaftssektoren – befassen.
Dann werden einzelne wirtschaftspolitische Felder analysiert.
So werden die Wirtschaftspolitik der Bundesrepublik Deutschland, die Europäische Union oder die Weltmarktverflechtung untersucht.
Hierbei soll das bei Formulierung entsprechender Texte verwandte Deutsch geübt werden.

【講義計画】

1. Bedürfnisstruktur
2. Güterarten
3. Verbrauch und Produktion
4. Nachfrage und Angebot
5. Betriebsformen(nicht-rechtlicher Art)
 5. 1. Einzelhandel
 5. 2. Großhandel
 5. 3. Transport
 5. 4. Produktion
6. Infrastruktur
7. BRD
8. EU

【評価方法】 Schriftlicher Test : Fragen nach den einzelnen Feldern

【テキスト】 Franz Bäumchen : Deutsche Wirtschaftssprache für Ausländer, Ismaning : Huber 1978.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
16701	ドイツ事情	選	3・4	2	前期	R. Szimpl
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副題】 第二次世界大戦後のドイツの歩み

【講義内容】 現代ドイツは50年前の敗戦の時から、変化の激しい道を行ってきた。現代ドイツを理解するために、戦後のドイツの歩みを考えていきたい。主なテーマとして、敗戦後の分割、2つの異なった政治・社会・経済体制の成立、「冷戦」中のドイツの国際的位置付け、東西ドイツの関係、東西ドイツの統一などを取り上げる。

【講義計画】 講義では、現代ドイツ事情の背景として、次の順序で第二次世界大戦後のドイツを考察する。

- ①第二次世界大戦の敗北とその直後のドイツ
- ②戦勝国の占領政策と利害衝突
- ③ドイツの分割
- ④2つのドイツ国家の成立
- ⑤ドイツ連邦共和国の社会・政治・経済体制
- ⑥ドイツ民主共和国の社会・政治・経済体制
- ⑦「冷戦」中の東西ドイツの国際的位置付け、東西ドイツ間の関係
- ⑧東ドイツの“sanfte Revolution”（「穏やかな革命」）
- ⑨東西ドイツの統一

【評価方法】 学期中提出一回のレポート・期末の論述式の試験・授業への参加姿勢によって総合的に評価する。

【テキスト】 ヴェルナー・マザー著、小林正文訳『現代ドイツ史入門』（講談社現代親書）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者	
16702	ドイツ事情	選	3・4	2	後期	R. Szimpl	
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 現代ドイツ事情

【講義内容】 本講義では、ドイツの政治・経済・社会の現状を考察して行く。敗戦の歴史を共にする日本との比較も参考にして、現代ドイツ社会の発展を考えながら、近年の東西統一を巡るいくつかの問題を考える。主なテーマとして、東西ドイツ統一後の政治的、経済的、社会的統合、統一ドイツの国際関係などを取り上げて、現代ドイツについての理解を深めていく。

【講義計画】 講義では、次の順序で、現代のドイツ事情を考察していく。

- ①ドイツの地理上の状況、ドイツの連邦州の特色
- ②ドイツの基本法と政治体制
- ③ドイツの経済体制
- ④ドイツの社会構造
- ⑤ドイツの国際関係、ドイツとヨーロッパ
- ⑥東西ドイツ統一の問題

【評価方法】 学期中提出一回のレポート・期末の論述式の試験・授業への参加姿勢によって総合的に評価する。

【テキスト】 テキストや参考文献については、講義中に指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者	
16711 16715	ドイツ語演劇研究 I・II	選	1~4	各2	前期 後期	D. Herberg	
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 Lesen, Interpretieren und Aufführen eines Dramas.

【講義計画】 Auswahl des Stücks, Kürzung des Texts, Verteilung der Rollen, Erklärung und Interpretation des Texts dann Einübung der Rollen.
Teilnahme auch außerhalb des regulären Unterrichts ist notwendig.

【評価方法】 Schriftliche Prüfung.

【テキスト】 Drama, nach Absprache mit den Teilnehmern.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
16721 16722	ドイツ語新聞講読	選	3・4	各2	前期 後期	林田雄二
他の科目との関連					他学科履修可	重複履修可

【講義内容】 科目名は新聞講読とあるが、新聞記事に限らず、文学テキスト以外の様々の種類のテキストを読んでいきたい。新聞、雑誌の記事を読む場合、文化的、政治的、社会的背景の知識が不可欠になるが、それは講義である程度は説明する。しかし、受講生も特にこの一年、日本で報道されるドイツに鋭敏になり、様々な情報を集めてほしい。可能であれば、Z S F ニュース、Deutsche Welleなども聴いてほしい。ドイツの最新情報の収集にはINTERNETもフル活用する。

【講義計画】

1. 新聞 (“Die Frankfurter Allgemeine”, “Die Zeit”, 地方新聞)
2. 雑誌 (“Der Spiegel”, “Focus”, “Der Stern” u.s.w.)
3. 自然科学、心理学、社会学などのテキスト
4. その他

【評価方法】 一回限りの学期末試験よりも、講義への積極的な参加を評価します。

【テキスト】 プリントを配布します。参考図書としては、伊藤光彦著『現代ドイツを新聞で読む』（白水社、1992）

文 学 部

国語学国文学科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17101 17105	国語学概論Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	丸山 徹
他の科目との関連	国語学概論Ⅰは国語学概論Ⅱ履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 観念としての「ひとつの統一、日本語」を表すものとして明治の人々がまず選んだ表現、それは「日本語」ではなく「国語」であった。それにはそれなりの非言語的文脈があったといえる。本講義では、この「国語」ということばにこだわりながら、「国語学」「日本語学」「言語学」三者の関係について考える。
次に、現代日本語の音声・音韻論、日本語音韻史、現代日本語文法、日本語文法史を共に学ぶ。

- 【講義計画】
- 「国語」ということばと「国語学」
 - 現代語の音声・音韻論
 - 日本語音韻史
 - ①「上代特殊仮名遣い」
 - ②「五十音図」と「いろはうた」
 - ③母音・子音の変遷
 - ④「清濁」「音便」「オ段長音の閉合」
 - ⑤アクセントの変遷
 - 現代日本語文法
 - ①「文法」とは何か
 - ②文法の単位
 - ③形態論・統語論
 - ④現代日本語形態論
 - ⑤現代日本語統語論
 - ⑥（術語の有する）文法カテゴリー
 - a. ヴォイス
 - b. アスペクト
 - c. テンス
 - d. モダリティー
 - e. 文法カテゴリーの層状構造
 - 古代語の姿と日本語の歴史的変遷
 - ①音の変遷
 - ②形態論
 - a. 動詞活用の成立と変遷
 - b. 連体格と連用格
 - c. ヴォイス、アスペクト、テンス、モダリティー
 - ③統語論
 - a. 係結び
 - b. とりたて
 - c. 接続

【評価方法】 平常点と学期末試験の成績による。出席も重視する。

【テキスト】 工藤 浩他『日本語要説』（ひつじ書房）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17111 17115	国文学概論Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	助川 徳 是
他の科目との関連	国文学概論Ⅰは国文学概論Ⅱ履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 国文学を研究するための、基本的な文献の探索、その整理の方法をはじめとして、研究の方法論、とくに構造主義、記号論、身体論、時間論などを講義する。それらの理解の上によって実際に作品を分析することが、自立してできるようになることを目標とする。

【講義計画】 最初の三時間は講義をノートする。それからはテキストを読み、方法論を理解する。後期は、その方法を、漱石『三四郎』『こころ』に応用する。

【評価方法】 ペーパーテストによって行う。出席も重視する。

【テキスト】 前期 前田 愛『文学テキスト入門』（筑摩文庫）
後期 夏目漱石『三四郎』『こころ』（新潮文庫）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17121 17125	漢文A I・A II	必	1	各2	前期 後期	櫻井龍彦
他の科目との関連	漢文A Iは漢文A II履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【副題】 漢文読解入門

【講義内容】 漢文A Iは、漢文の基礎的な読解力の養成を目的とする。高校における漢文授業時間の減少から、学生諸君の漢文基礎学力は極めて低下している。従って本講義では、もう一度初歩にもどって基本語法を学び直し、読解法を体系的に修得していききたい。また漢字、漢籍に関する基本的知識も教示し、文献資料があつかえるように、目録学、書誌学上の知識および工具書（字典、索引などの参考書）の使い方も学ぶ。

漢文A IIは、A Iで修得した読解基礎力をもとに、具体的に各種例文を精読しながら、応用力を高めることを目的とする。

【講義計画】 A Iは基礎的読解力の養成を目的とするため、演習の形をとり、問題を解きながら授業をすすめる。中国古典の原文は日本語とは構造が異なるというあたり前の事実を認識し、漢文訓読の規則を体系的に覚えていきたい。

A IIは主として散文（学生諸君の関心に依じて、韻文もとりあげる）を教材に、勘や直感で読むのではなく、文法をふまえて論理的に読むという訓練をしたい。

A I、A IIいずれも中間に小テストを実施し、きびしく指導する。

【評価方法】 最終の筆記試験および中間の小テストを合わせて評価。

【テキスト】 『漢文の錬成（基礎編）』（清水書院）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17131 17135	国文学基礎講読 I・II	必	1	各2	前期 後期	大谷俊太
他の科目との関連	国文学基礎講読 Iは国文学基礎講読 II履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【副題】 古典文学研究入門

【講義内容】 先ず、古典文学研究の入門的事柄について講義するとともに、古典文学研究の基礎となる読解力を養成するため、写本や版本の変体仮名、くずし字の読み方の練習を行う。さらに、嵯峨本『伊勢物語』・『仁勢物語』ならびに和歌・連歌を対象に、実際の作品の講読を行う。

【講義計画】 1. 古典文学研究の方法について
2. 補助学について
3. かなについて
4. 作品講読

【評価方法】 発表内容、レポート、筆答試験

【テキスト】 神戸平安文学会編『仮名手引』（和泉書院）
片桐洋一編『伊勢物語（慶長十三年刊、嵯峨本第一種）』（和泉書院）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17141 17145	国文学基礎講読Ⅲ・Ⅳ	必	2	各2	前期 後期	福 長 進
他の科目 との関連	国文学基礎講読Ⅰ・Ⅱの履修・同時登録を前提とする。 国文学基礎講読Ⅲは国文学基礎講読Ⅳ履修のための前提科目。			他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 『枕草子』

【講義内容】 『枕草子』の各章段は通常、類聚的章段・随想的章段・日記的章段に分類される。随想的章段は類聚的章段からの発展と理解されるが、日記的章段は他の二つの章段との関係性が不分明で、それが『枕草子』の統一的把握をむづかしくしている主要因となっている。日記的章段のほとんどは定子後宮に起った出来事に取材する自讃談であるが、そこには『枕草子』の各章段に通有する表現の基本構造〈問いと答え〉が清少納言の定子や貴族たちとの応答という具体的な形で立ち現われている。日記的章段は『枕草子』の本質が最も顕化した章段といえる。日記的章段のいくつかを読みながら、『枕草子』の統一的把握を試みる。

【講義計画】 ①『枕草子』の表現の基本構造（1～4週）
②『枕草子』の作者（5・6週）
③『枕草子』と中関白家（7・8週）
④「清涼殿の丑寅の隅の」段の検討（9～12週）
⑤「頭の中將の、すずろなるそら言を聞きて」段の検討（13～16週）
⑥「二月つごもりころに」段の検討（17・18週）
⑦「職の御曹司におはしますころ、西の廂に」段の検討（19～23週）
⑧『枕草子』の跋文（24週～）

【評価方法】 前後とも、講義内容の理解度をみる試験を行い、それによって評価する。

【テキスト】 石田稷二校注『枕草子』〔上・下巻〕（角川文庫）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17152 17162	国文基礎演習Ⅰ（B）・Ⅱ（B）	必	2	各2	前期 後期	丸 山 徹
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「学校文法」を考える

【講義内容】 小学校、中学校、高等学校ですでに「文法」を学んできたのに、なぜまた大学で「文法」を学ぶ必要があるのかについて共に考える。

【講義計画】 下記の諸点について、二種のテキストを対照しながら共に考える。
1. 「文法」とは何か
2. 「文法」のいろいろ
——学校文法、伝統文法、規範文法、記述文法、歴史文法…
3. 「学校文法」の性格
①動詞の活用
②形容詞と形容動詞
4. 「活用」のない文法 他

【評価方法】 参加者各自の口頭発表の内容、授業中の議論への参加の度合い、期末レポート・期末試験の成績による。

【テキスト】 遠藤嘉基『対照日本文法』（中央図書）
益岡隆志他『基礎日本語文法』（くろしお出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17153 17163	国文基礎演習 I (C)・II (C)	必	2	各2	前 後 期	美濃部重克
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 『愚管抄』の研究

【講義内容】 承久の乱の前後の時期に天台座主であり歌人でもあった慈円の手になった歴史書が『愚管抄』である。神代のことを省いて神武天皇の事績から筆を起し作者の生きる現代までの歴史をたどる。その書は日本で初めて自らの史観をはっきりと打ち出して纏めあげられた通史であって、しかも内容に即した文体上の工夫も懲らして文学的な興味をもって扱うことのできる面白い作品となっている。『平家物語』との密接な関係が推定されるもので、その面からも精読し十分な解釈が必要とされるものである。

【講義計画】 講義は教科書に岩波の古典大系本を用い、その頭注と補注を手がかりに発表者が自ら資料を収集整理したうえで解釈を加えて、その結果を発表することを中心とする。講義担当者はその際に助言者としてクラスに参加することをたてまえるとする。資料の収集とその解釈のしかた、そしてそれを通してどのような問題をたてればよいのかに受講生はちからをそそがねばならない。発表資料は発表の一週間前に受講生に配布され、受講生はそれに十分眼を通したうえでクラスにのぞまねばならない。

【評価方法】 評価は、発表資料と発表内容そして他の発表者の発表時における発言にもとづいて行われる。

【テキスト】 岡見正雄・赤松俊秀校注『愚管抄』（岩波書店刊）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17154 17164	国文基礎演習 I (D)・II (D)	必	2	各2	前 後 期	大 谷 俊 太
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 『衆妙集』の研究

【講義内容】 『衆妙集』とは細川幽齋の家集の名。細川幽齋（天文3年1534～慶長15年1610、77歳）は、細川元常の養子。実は12代将軍足利義晴の子ともいわれる。初め足利将軍家に近侍、のち信長・秀吉に仕え、関ヶ原合戦にも東軍に味方し、江戸時代に至るまで戦国の乱世を生き抜いた武将だが、同時に文事に於いても当代有数の文化人であった。特に和歌は九条稚家・三条西実枝に就き、実枝から古今伝授を受けるに至る。天正10年本能寺の変に際して家督を息子の忠興に譲ってからは、以前に増して作歌・古典の書写活動を行い、武家歌人の枠を越えて、公家に伍してその盛名を馳せた。そのような幽齋の学問は、中世歌学の集大成とも称されるにふさわしいが、一方、その実作は、中世以来の伝統を踏まえつつ、用語の面・趣向の面において近世的新しさを感じさせもする。中世と近世の結節点に位置すると考えられる『衆妙集』を読み、古今集以来の和歌の伝統を確認し、その上で近世和歌の始発について考える。

【講義計画】 I（前期）は『衆妙集』所収の百首歌を、II（後期）は『衆妙集』春部の和歌を精読する。

- ①細川幽齋・『衆妙集』についての概説
- ②研究方法の概説
- ③口頭発表・質疑応答。予め下調べを行い発表資料を作成した上で順番に全員が担当する
- ④レポート提出

【評価方法】 総合評価。毎回全員出席のこと。

【テキスト】 コピー配布。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17155 17165	国文基礎演習 I (E)・II (E)	必	2	各2	前期 後期	安田文吉
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重複 履 修 不可

【副 題】 『曾我物語』の研究

【講義内容】 歌舞伎『曾我物語』は、歌舞伎の世界の一つであり、『曾我物語』を始め、謡曲・幸若から中世、近世文化にかかわる面まで、幅広い関連をもっている。この演習では、『曾我物語』を中心に、上記の種々のものを加味しながら、作品の検討を行ない、近世文芸の特色を考える。

【講義計画】 毎回、テキスト一頁程度を2～3人のレポーターを指定して分担させる。その報告をもとに全員で検討する。

【評価方法】 口述試験

【テキスト】 『助六所縁江戸桜・寿曾我対面』〔歌舞伎オンステージ1〕（白水社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17156 17166	国文基礎演習 I (F)・II (F)	必	2	各2	前期 後期	細谷 博
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重複 履 修 不可

【副 題】 近代文学をどう読むか

【講義内容】 眼前にある書物を書き、ある作品を読む。この何気ない日常の行為が、ときに我々をつよく動かすものとなる。閉じられた書物を前に、動かされた心をかかえて読み手はあらためて自らに問うだろう、いったい何が読まれたのか、また、いかに読まれたのか。これが我々の出発点である。そこから様々な確認と検討、論文読解、比較考察等が始まる。各々の読みをかかえつつ、さらにゆたかな理解と表現へ向けて。すなわち、「論」の勉強のはじまりである。

しっかりと読み考えること、さらに誠意と情熱を持って語ること、そこから生き生きとしたゼミの時空が生まれる。何より、考えることよるごびに溢れた、面白い、充実したゼミをめざしたい。

【講義計画】 太宰 治等の作品を対象として読解を行なう。具体的な作品本文を逐語的に丁寧に読みとることと、また、作品全体を端的にとらえることを同時にめざす訓練の場とする。

1. 作品読解、研究方法入門
2. 担当課題、発表日程の決定
3. 口頭発表、質疑応答
4. 面接による個別指導
5. レポート提出

【評価方法】 担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価。出席も重視する。

【テキスト】 太宰 治『女生徒』（角川文庫）他

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17157 17167	国文基礎演習 I (G)・II (G)	必	2	各2	前期 後期	山本和義
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重複 履 修 不可

【副 題】 『蘇東坡絶句』の研究

【講義内容】 蘇軾（そ・しょく）、号は東坡居士（とうばこじ）は、中国北宋期を代表する詩人で、その詩はわが国でも室町以降ひろく読まれてきた。演習では、村瀬栲亭（むらせ・こうてい）が校閲して、文化14（1817）年に刊行した『蘇東坡絶句』4巻のうち、巻3・4（七言絶句、訓点つき）を読み進め、併せて『四河入海』（しかにつかい）の該当部分のうち、一韓智翹（いっかん・ちこう）の聞き書き（『蕉雨余滴』、室町の口語資料）を読む。

本演習では、漢詩（中国古典詩）の読解力を培うことを主たる目的とするが、室町・江戸期の拠点資料、「抄物」（しょうもの）の扱い方に習熟することもねらいとする。

【講義計画】 先ず蘇軾の人と文学（中国文学史における位置づけを含む）について概説し、次いで『四河入海』の解説に併せて発表資料の作成方法を説明する。

受講者は順次、詩二首を分担して、発表資料にもとづいて研究の成果を報告し、それを全員で検討する。発表資料には、主要な詩語の用例（典故）、訳稿、『四河入海』中の詩の本文と『蕉雨余滴』部分のコピーを含めなければならない。受講者全員に配布するものとする（担当者には1週間前に提出する）。なお、用例の検索にあたっては、『佩文韻府』（はいぶんいんぷ）を利用することが求められる。

【評価方法】 発表資料と発表時の成果を主とし、必要に応じてレポートを課する。

【テキスト】 和刻本『蘇東坡絶句』巻3・巻4のコピーを用いる。『四河入海』は勉誠社影印本に拠る（図書館指定図書…館外帯出を禁ずる）。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17251 17261 17271 17281	国文演習 I (A)・II(A)・III(A)・IV(A)	必	3・4	各2	前期 後期	進藤義治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 『源氏物語』研究

【講義内容】 古典文学にも、単なる発掘土器の芸術の如く、没個人的なものばかりでなく、一人の個人の創作と考えるに十分な作品も存在している。源氏物語は少なくともそういう作品の最も質の高いものの一つである。この作品は、広くは王朝貴族の精神生活の世界に属しつつも、極めて強い作者の個人的美意識、好悪、祈念等が基盤を成している所が大である。しかるにそういう点の研究は従来不徹底なものに留まっている。この演習では、その点を大胆に探求していく。

【講義計画】 前期は、四年生は、各自源氏物語について、一つの小研究題目をきめて、それについて研究発表をする。その題目は国語学の分野でも国文学の分野でも自由であり、構成論であれ描写論であれ、成立考であれ、語義研究であれ、位相研究であれまったく自由。卒業論文を念頭に置きつつ試論を展開してほしい。三年生は、この物語のどの巻のどの段落でも、自由に選んで訳読する。訳読にあたっては語義や表現の問題などを中心に、できるだけ、詳しく調査し発表する。

後期は、四年生は、卒業論文の中間発表を中心に、三年生は、既存の源氏物語研究の批評再検討などから、漸次自分の研究テーマの確立を目指した発表を始める。

【評価方法】 各研究発表の内容と期末にその学期間を通じて検討してきたことの纏めとして、テストまたはレポートを提出してもらって判定する。

【テキスト】 角川文庫『源氏物語』などで全巻を揃えておくこと。又必ず原文で全巻を通読しておくことを演習参加の条件とする。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17252 17262 17272 17282	国文演習 I (B)・II(B)・III(B)・IV(B)	必	3・4	各2	前期 後期	丸山 徹
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 国語学

【講義内容】 中学校・高等学校で学ぶ「文法」を改めて見なおしながら、「動詞の活用」「形容詞と形容動詞」「自動詞と他動詞」などについて共に考える。また、国語学概論で学んだ「国語」「日本語」という二つの言葉の成立についてももう一度考えながら、「国語学」「日本語学」「言語学」三者の関係について論ずる。その中で「国語学」を選び、学び続けていることを各自確認してから、口頭発表に臨むこととする。

【講義計画】 前期

下記二つのテキストを対照しながら、日本語文法記述の二つの違った立場について考察を加え、そのどちらとも異なる第三の見方ができないかを共に考える。

後期

四年生から順に、現在抱えているテーマについて口頭発表し、その後、皆でその内容について議論する。日本語に関するテーマならすべて認めるが、四年生については原則として卒業論文のテーマとすること。発表者には発表の一週間前までに演習参加者全員に発表要旨を配布しておくことが求められる。

【評価方法】 参加者各自の口頭発表の内容、授業中の議論への参加の度合、期末レポート・期末試験の成績による。

【テキスト】 遠藤嘉基『対照日本文法』（中央図書）
清瀬義二郎則府『日本語文法新論』（おうふう）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17253 17263 17273 17283	国文演習 I (C)・II(C)・III(C)・IV(C)	必	3・4	各2	前期 後期	美濃部重克
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 中世文学研究

【講義内容】 『平家物語』『閑居友』『とはずがたり』『方丈記』『平家公達草子』を分析的に解釈する訓練を通して中世文学について論文を書くための涵養を目的とする。そのいずれも、王朝の文学的な伝統の上に立ちつつ、中世的な歴史社会の現実とそこに生きる人々の感情の価値化を目的として、中世の文学様式を模索した結果としての表現であって、そこに中世の文学のさまざまな現れを見ることができる。そこからどのような文学に関する問題を引き出すことができるか、受講生は各人その試みをするようになる。担当者はクラスでは助言者として振る舞うことになる。

【講義計画】 はじめに担当者が上記作品のうちいずれかひとつを取り上げて、発表の仕方の手本を示す。あとは受講生が自らの能力をもって試行錯誤を繰り返し、かつ時間をかけての調査と思考の結果をクラスで発表することになる。

【評価方法】 評価は、発表内容そして他の発表者の発表時における発言にもとづいて行なわれる。

【テキスト】 そのつど指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17254 17264 17274 17284	国文演習 I (D)・II(D)・III(D)・IV(D)	必	3・4	各2	前期 後期	大谷俊太
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 『和歌座右』の研究

【講義内容】 『和歌座右』とは、『万葉集』・『新古今集』・『拾遺愚草』などから抄出した和歌とその注釈

を、歌の頭の字により、いろは順に並べたもの。書名・奥書に拠れば、細川幽齋が自らの座右の書として、作歌に際しての本歌や證歌の便のために編んだものであるという。従って、本書の内容を検することは、細川幽齋の、引いては当代歌人の和歌に関する知識の出所と、作歌の内実を明らかにすることになる。

従来の研究で、本書は『宗長秘歌抄』『常緑新古今集注』などの先行の諸注釈書から抄出により成り立っていることが報告されている。なお未詳の和歌も残されているが、それらの先行の注釈書を参照しつつ和歌及び注の読解を行う。

【講義計画】 前期・後期を通じて、『和歌座右』の和歌と注釈を、静嘉堂文庫所蔵の一本（写真版）を用いて読み進める。

1. 『和歌座右』・細川幽齋・当代歌学の様相についての解説
2. 先行の古注釈書の概説
3. 研究方法の概説
4. 口頭発表・質疑応答。予め下調べをした上で発表資料を作成し、順番に全員が担当する
5. レポート提出

【評価方法】 総合評価。毎回全員出席のこと。

【テキスト】 コピー配布。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17255 17265 17275 17285	国文演習Ⅰ(E)・Ⅱ(E)・Ⅲ(E)・Ⅳ(E)	必	3・4	各2	前期 後期	安田文吉
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 近世演劇史研究

【講義内容】 近世の歌舞伎・人形浄瑠璃作品をとりあげ、作品自体はもちろんのこと、作者・役者・観客・番付・評判記・太夫・三味線等を含めて、総合的に検討し、近世芸能・近世文化について考える。また、近世は農村や漁村・山村にも歌舞伎・人形浄瑠璃がとり入れられ、盛んに上演されており、また、昨今、祭礼も復活、或いは盛んになりつつあるので、これらについても、芸能文化の点から考察したい。

【講義計画】

1. 歌舞伎・人形浄瑠璃について概観する。
2. 1回につき2名～3名のレポーターを指名。
3. 合宿は年1回（3～4日）。

【評価方法】 総合的評価

【テキスト】 未定

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17256 17266 17276 17286	国文演習Ⅰ(F)・Ⅱ(F)・Ⅲ(F)・Ⅳ(F)	必	3・4	各2	前期 後期	細谷博
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 近代・現代文学研究

【講義内容】 近代・現代文学の読解、研究を行なう。なにより作品を丁寧に読みたいと思う者、読むこと、そして書くことを通して、何事かをたしかに考えてみようと思う者を対象とする演習である。自己の〈小説読み〉の力——言葉による人間形象の把握力と、他者へむけての表現と討論の力をつちかう場としての参加を望む。

しっかりと読み考えること、さらに誠意と情熱を持って語ること、そこから生き生きとしたゼミの時空が生まれる。何より、考えることによるこびに溢れた、面白い、充実したゼミをめざしたい。

- 【講義計画】 前期は太宰 治を読み（基礎ゼミとは異なる作品を中心とする）、後期は各自のテーマにそって進める（四年生を優先）
1. 作品読解、研究方法入門
 2. 担当課題、発表日程の決定
 3. 口頭発表、質疑応答
 4. 面接による個別指導
 5. レポート提出（前期は課題作品、後期は自己のテーマ）

【評価方法】 担当発表、レジュメ、質疑応答、レポート等から総合的に評価。出席も重視する。

- 【テキスト】 太宰 治『女生徒』（角川文庫）
 太宰 治『お伽草紙』（新潮文庫）
 太宰 治『津軽』（新潮文庫）
 太宰 治『人間失格 グッド・バイ 他一篇』（岩波文庫）〔含「如是我聞」〕
 太宰 治『もの思う葦』（新潮文庫）他

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17257 17267 17277 17287	国文演習Ⅰ(G)・Ⅱ(G)・Ⅲ(G)・Ⅳ(G)	必	3・4	各2	前期 後期	山本和義
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 嘉永2年刊『枕山詩鈔』の研究

【講義内容】 幕末から明治にかけて江戸・東京の漢詩壇にあって、森春壽（1819～89）とともに双壁を成した詩人に大沼枕山（おおぬま・ちんざん。1818～91）がある。枕山は、尾張国丹羽村（現・一宮市丹羽）に漢学塾「有隣舎」を開いた鷺津幽林の孫であり、若い日に有隣舎に寓して学んでいる。嘉永2（1849）年に刊行された『枕山詩鈔』1冊（『枕山詩鈔』初～三編、計九巻とは異なる）には、19歳から25歳に至る間の七言絶句を収める。枕山はその自序に「詩の道為（た）るや、精を費びて多きを費ばず、簡に在りて繁に在らず」と記しているように、渾身の力を注いだ力作であり、絶句の名手として知られた枕山の力量を窺うに足る作品群である。

【講義計画】 講義は、まず枕山の人と文学を概説することから始め、研究方法の概略を講じて後、前・後期を通じて作品を努めて精緻に読み進める。本演習では、毎時発表者を定めて、用意された注解稿（発表資料）にもとづいて検討してゆく。特に典故（詩語の拠りどころを含めて）を重んじて、それぞれの詩世界の拡がりを読み取ることに努める。発表資料（草稿）は1週間前には担当者に提出しなければならない。また、永井荷風『下谷叢話』（枕山の評伝を含む）と、日野龍夫注『成島柳北大沼枕山』（岩波・江戸詩人選集10）は、参考文献として重視される。

【評価方法】 評価は、発表資料と発表内容、また必要に応じて提出を求めるレポートにもとづいて行う。

【テキスト】 嘉永2年刊『枕山詩鈔』（担当者蔵）をコピーして配布する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17601 17605	国語史Ⅰ・Ⅱ	選	2・3	各2	集中	進藤義治
他の科目との関連	国語史Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 古代以来の仮名遣いの乱れと音韻の変化の関係

【講義内容】 現在でも古典国語の文章は歴史的仮名遣いという、実際の発音とはかなり食い違う部分を有する仮名遣いで書かれている。なぜそんな仮名遣いが存在したのか、その大本を万葉集などの所謂万葉

仮名までさかのぼって、当時の実際の発音の推定をし、更にその万葉仮名の乱れと思われる現象などを追って時代につれて変化してきたと考えられる発音変化の歴史を考えてみる。

- 【講義計画】
1. 万葉仮名に見られるヤ・ワ行音
 2. ア行のエのヤ行音化
 3. ハ行音のワ行音化
 4. 源氏物語写本の漢語拗音の綴り方
 5. 定家仮名遣いと契沖の和字正濫抄
 6. 二重母音の発生と変化
 7. 漢語 t 入声と連声
 8. 四つ仮名の問題
 9. その他あれこれ

【評価方法】 期末ごとに筆答試験をおこなって評価する。

【テキスト】 特定テキストは用いない。講義原稿そのものをプリントして配布し、講義中はそれをテキストとして用いるが、更に臨時説明を付加展開するので欠席はしないことを望む。参考文献はプリント中に紹介する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17611 17615	国文学史Ⅰ・Ⅱ	選	2・3	各2	前期 後期	安田文吉
他の科目との関連	国文学史Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 近世文学史

【講義内容】 近世の始まりは諸説あるが、本講義では応仁の乱（1467年）あたりをその始まりと捉らえる。中世文学と近世文学の大きな違いの一つは印刷・出版の有無である。印刷・出版により、同じものが多く作られることにより、多くの人が、同時に、同じ文学作品に接することが可能になった。つまり、特権階級に独占されていたものの大衆化がはじまり、やがて広がったのである。また、近世文学は、非常に多岐に渡っている。仮名草子・浮世草子・読本・洒落本・談義本・滑稽本・人情本・赤本・黒本・青本・黄表紙・合巻・和歌・国学・狂歌・俳諧・雑俳・浄瑠璃・歌舞伎・近世歌謡など。これらを年代別・分野別・作者別に、しかもそれぞれの相関関係を踏まえながら、あるいは先行の諸々の文学作品などの影響を考慮しながら、近世文学の流れを捉らえる。

【講義計画】 近世の始まり
印刷・出版の歴史
慶長年間～享保年間の文学史（Ⅰ期）
享保年間～慶応年間の文学史（Ⅱ期）
それぞれの作品の構成
それに先行する説話・文学作品・文化との関連
それぞれの時代的背景
江戸・尾張・伊勢・京都・大坂の地域特色
近世文学・文化が表現するところの特色

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 『近世文学研究事典』（おうふう）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17631 17635	書道AⅠ・AⅡ	選	2・3	各1	前期 後期	大池茂樹
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 漢字の書——その歴史と実技

【講義内容】 中国および日本における書道の歴史を概観し、書の文化に対する認識を深める。特に今年は中世の書の様相について考えたい。
また、毛筆を使っての書写実技を通して、用具用材の扱い方、日常の書、現代に生きる書道の役割についても考える。書道用具一式を用意のこと。

【講義計画】 前期 中国の書
①中国書道史——宋元代の書の諸問題
②中国の名碑・名蹟の鑑賞
③実技——楷書の基本的な用筆法を学習する
④その他書道に関する知識

後期 日本の書（漢字を中心とする）
①日本書道史——鎌倉室町時代の書の書問題
②日本の名跡の鑑賞
③実技——行書の基本的な用筆法を学習する
④その他書道に関する知識

【評価方法】 実技作品、レポート等により評価する。

【テキスト】 前期『漢字の書の美 中国篇』〔書の基本資料9〕（中教出版）
後期『漢字の書の美 日本篇』〔書の基本資料10〕（中教出版）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17641 17645	書道B I・B II	選	2・3	各1	前期 後期	飯田 実
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 B I “かな書道”（毛筆） B II “ペン習字”

【講義内容】 B I かな（毛筆）
(1)かなの種類。(イ)カタかな・(ロ)ひらがな・(ハ)万葉仮名・(ニ)変体仮名。
(2)わが国独自の“かな文字”誕生の起因とその時代背景。(特に平安初期から中期にかけての時代背景)
(3)ひらがなの字源の理解を通して、ひらがなの正しく美しい書き方の説明。
(4)変体仮名の読解の徹底をはかる。

B II ペン習字
(1)字形の整え方。
(2)かな、漢字（楷・行・草書）の特徴と基本点画。
(1)(2)の理解を基礎に、現代の実用書の書式を学び、美しく、整ったペン字が書ける様にする。

【講義計画】 上述の目標に向けて、書論の講義を通しての知的理解をはかると共に、併行して“かな文字”“ペン習字”の実技指導を行う。
B I かな：(1)かなの発生、展開とその種類。(2)いろは48文字の字源の把握と効用。(3)代表的変体仮名の読解と実技練習。(4)連綿の基礎十二法について。(5)執筆法について。(6)かな単体および連綿体の基礎的履修。以上の様なかなに関する知識を伝えると共に、小筆によるかなの美しい書き方を指導する。

B II ペン習字
(1)はがき・便箋・封筒・年賀状・その他実用文の書法。
(2)上記のそれぞれの書式について
(3)自分の住所氏名を楷・行・草体で正しく美しく書ける様に指導。
以上等ペンによる実用書の指導を行う。

【評価方法】 原則として数回提出の実技作品の平均点と、平常点（出席日数など）の総合評価とし、ペーパーテストを行う場合は、これを含めた総合評価とする。

【テキスト】 『梅雪かな帖 上』（松林堂〔株〕）、『ペン習字』（中日文化センター）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17651 17655	国語学講読A I・A II	選	2~4	各2	前期 後期	靱山洋介
他の科目との関連	国語学講読A I・A IIを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 現代日本語の意味論

【講義内容】 A I

まず、意味論の基本的な考え方、特に、語の意味分析の方法論（成分分析、意義素論、認知意味論等）を学ぶ。その上で、現代日本語の「多義語」及び「類義語」を分析する方法について考え、自ら分析する能力を身につけることを目指す。受講にあたって、予備知識は必要としないが、町田健・靱山洋助著『よくわかる言語学入門』（パベル・プレス）の「第5章 意味論」をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

A II

現代日本語の「比喩」「慣用句」「モダリティの諸表現」「敬語」を考察対象とし、分析の方法について考え、自ら分析する能力を身につけることを目指す。

【講義計画】 授業はプリントに基づく講義及び基本文献の講読を中心に進めるが、随時受講者に発言を求めるので、積極的に自分の考えを述べること。

【評価方法】 レポート及び平常点。

【テキスト】 参考文献は随時紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17661	国語学講読B I	選	2~4	2	前期	田島毓堂
他の科目との関連	国語学講読B II履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 語彙論概説

【講義内容】 日本語学概論のうち、特に語彙論を概説する。中でも、語彙総体論及び語彙研究の前提になる理論的側面を中心に講ずる。音韻論・文法論にくらべて見たときの、語彙論の偏頗な発達、語彙を総体として把握することが未成熟である。そのことの原因を見据えた上で、其の用語、単位の問題、体系の問題、語彙分類のこと、個々の語の問題等について考え、語彙論という分野の開拓を目的とする。

【講義計画】 第1回 用語の説明、日本語・国語・日本語学・国語学等。
教職の単位として受講する学生のために、また、国語科そのものについて注意喚起のために、教科としての「国語」のあり方について説明する。
第2回 日本語について、他言語との関係における大略の説明。
第3回 語彙論の用語について。「語彙」といふ用語の誤用及びその原因。
第4回 語彙論における単位、音韻論・文法論と比較しつつ。
第5回 語彙論的語の単位について。意味単位・基準単位・運用単位。
第6回 語彙論の課題。その集団的規範の側面と個別の実現の側面について。ラング・パロールの論と並行して。
第7回 語誌と辞書。
第8回 語構成論及び語源論。
第9回 語彙体系論について。
第10回 語彙分類について。『分類語彙表』・ROGET“THESAURUS”について。
第11回 個別語彙分析における意味構造分析。意味構造分析とは。
第12回 集団的規範としての語彙と個別の実現としての語彙、及び、その取り扱い、研究目的について。
第13回 個々の言語資料・言語作品すなはち個別語彙の分析の方法。その視点のいろいろとその視点の効果。
第14回 個別語彙分析のためのC50・D10について。
第15回 単位としての語の組合せ、「臨時一語」について。

その他、随時、比較語彙論・異なりと延べ・基本語彙・基礎語彙・基幹語彙・基調語彙等について講義する。

【評価方法】 講義時間中に与へる課題についてのレポートによって行なう。

【テキスト】 田島毓堂編『語彙研究資料集』〔予定〕
参考文献：築島 裕『国語学』、田中章夫『国語語彙論』『図説日本語』（角川小辞典シリーズ）等

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17665	国語学講読B II	選	2～4	2	後期	田 島 毓 堂
他の科目との関連	国語学講読B I の履修を前提とする。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 語彙研究各論

【講義内容】 語彙総体論については、すでにおおまかな知見を習得したものととして、語彙研究データ作成のために、コンピュータ使用法を学び、その作業に習熟する。さらに、余裕があれば、作成したデータないし既成のデータを用いて、語彙各論として、個別語彙の分析を行ふ。

【講義計画】 第1回 語彙論の概略と講義の目的内容等につき説明（資料集を用意する）
 第2～4回 語彙研究の資料作成のためのコンピュータ使用について
 1)コンピュータの使用法の説明・使用するプログラムとその使用法の説明と実行
 2)テキストエディタを使って入力（練習）（ファイル名 YG???.TXT）
 第5. 6. 7回 前回の練習結果を用いて
 3)単語に分割する（ファイル名 YG???.C.TXT）
 4)Voca Systemを使って単語レコードを作る（ファイル名 YG???.V.TXT）
 5)YG???.V.TXTを補充訂正する（単語集の完成）
 6)DBPROを用いて「単語集（ファイル名 YG???.DPT）」から「異語表（ファイル名 YG???.K.DPT）」を作る（DBPROの操作）
 7)「異語表」を種々操作・分析する（度数順・度数別統計）
 8)「異語表」に品詞・語構成・語種・意味コードを付加し、品詞別・語種別・語構成別・意味分野別語彙表・統計表を作る
 9)他資料と比較検討する（言語資料としては与謝野源氏を用いる予定）
 意味コード付けについて実践する（課題を与へる）
 第8. 9. 10回 課題1について、各自実習し、前期の、2)から5)までを行ふ。
 第11回 意味コード付けについて実践する（課題を与へる）、『分類語彙表』を用ゐる。
 第12. 13. 14. 15回 課題2について、前期の2)から8)を実行し、完成結果をレポートとして提出する。
 その他、随時5)から9)までの作業をする。また、既に作成してある源氏物語の語彙表・宇治拾遺・今昔物語の語彙表などについても検討する。また、意味構造分析も行ふ。なお、使用するシステムは一応、上記のようにしたが、変更の可能性もある。
 注意事項

- 不明な点、理解できないことなどについては、その時間内に質問して必ず解決しておくこと。
- 出席については厳密にはしないが、欠席した時間のことについては、各自の責任で補って置くこと。後の時間にそのことについての質問には応じない。
- 人数は40人を限度とする（計算機の台数の関係）

【評価方法】 時間中の課題1・2及び他の宿題によって行なう。

【テキスト】 国語学講読B I で使用した『語彙研究資料集』を使用する。
 参考文献：田中章夫著『国語語彙論』（明治書院、S53.2）
 国立国語研究所編『分類語彙表』（秀英出版、S38）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17681 17685	漢文学講読Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	山本和義
他の科目との関連	漢文学講読Ⅰ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 大槻磐溪（注）『三体詩絶句解』

【講義内容】 『三体詩』（サンテイシ、またサントイシ）は、南宋・周弼が編んだ唐詩の選集である。「三体」とは、七言絶句・七言律詩・五言律詩の三つの形式をいい、『絶句解』に収めるのは、その中の七言絶句ということになる（周弼の独創的な作品の分類については講義で述べる）。『三体詩』は、わが国では、『唐詩選』に先行して、室町以降ひろく読み継がれてきた唐詩の選集であり、多くの注が書かれ、版本もおびただしい数にのぼる。

大槻磐溪（1801～78）は、幕末明治に生きた仙台の人、すぐれた学問の人であり、詩人としての評価も高い。その『三体詩』に施した注は、先人の業績を踏まえつつ、独自の見解を述べてすぐれる。

【講義計画】 まず、唐詩について概略を述べ、わが国におけるその受容史を講じて、『三体詩絶句解』についての理解を深める。

ついで、『三体詩絶句解』巻上・実接の部を読み進める。受講者は、取次の指名を受けて、〈詩〉と〈注〉を読み上げ、口訳に関わっての担当者の問いに答えなければならない。従って、十分なる予習のうえ講義に臨む必要がある。

【評価方法】 筆答試験による。

【テキスト】 万延元（1860）年刊『三体詩絶句解』巻上・実接の部をコピーして用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17691 17693	国語学特殊講義AⅠ・AⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	斎藤文俊
他の科目との関連	国語学特殊講義AⅠ・AⅡを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 洋文典と近代日本語の研究

【講義内容】 幕末以降、外国人が著した日本語研究書が多数現れている。日本語を客観的にとらえた彼らの記述から学ぶべきものは多い。本講義では、その中の一冊、B.H.Chamberlain: *A Simplified Grammar of the Japanese Language*（『簡約日本文典』）を読み、それをもとに明治時代の日本語について考察していく。

【講義計画】 必ず予習をした上で講義に参加すること。テキスト（もちろん英文）の内容を中心に、随時意見を求める。

講義ではChamberlainの記述をもとに、適宜W.G.Aston, J.C.Hepburnらの見解も参照しながら、日本語の史的変遷と明治時代の日本語について解説する。

【評価方法】 期末レポートを中心とした総合評価

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17711 17713	国文学特殊講義AⅠ・AⅡ	選	3・4	各2	前期 後期	加藤洋介
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 源氏物語研究 —— 光源氏論 ——

【講義内容】 光源氏をめぐる幾つかの視点から、その虚構性に留意しつつ、源氏物語の描く政治・文化の問題について講ずる。

【講義計画】 前期は光源氏登場の物語史的意義（桐壺巻）から、任太政大臣（少女巻）までを扱い、後期は准太上天皇に到る（藤裏葉巻）までの過程を取り上げる予定である。

【評価方法】 レポート試験による。

【テキスト】 授業中に参考文献を随時指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17715 17717	国文学特殊講義B I・B II	選	3・4	各2	前期 後期	美濃部重克
他の科目との関連				他学科履修		重複履修

【副題】 『平家物語』の研究

【講義内容】 中世を代表する軍記文学。その世界は鎌倉時代の後期における過去と現代が、平家の滅亡という大事件の叙述を通して文学的なかたちをとったものと言える。巨大なと形容してよいそのテキストがどのような場で、いつ頃に生成したのか、その構成、表現そして主題は何か、そうした問題について、でき得る限り実証的に論じることを試みる。

【講義計画】 前期はテキストの生成に関わる諸問題を、後期はテキストに関わる部面を扱う。

【評価方法】 筆記試験による。

【テキスト】 高橋貞一校注『平家物語(上)(下)』（講談社文庫）および配布プリント。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17721 17723	国文学特殊講義C I・C II	選	3・4	各2	前期 後期	安田文吉
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 近世歌舞伎研究

【講義内容】 江戸時代の歌舞伎は、明治以後の歌舞伎とは大いに異なって、筋立てや時代考証等が実に巧みに、しかもおもしろく構成されている。例えば、『菅原伝授手習鑑』は平安時代の菅原道真の半生記であるが、そこに江戸時代の寺子屋や、道真の一番弟子である建部源藏なる浪人が登場するなど、歴史的に見て間違ったところもいくつかあるが、実際に歌舞伎の舞台を見ていると、不思議に違和感がない。それどころか、つい舞台に引き込まれる。これは何故だろうか。また、菅原道真が雷神になって、悪人藤原時平を打ち倒すところや、飛び梅の話などは、中世以来の説話を取り込んでいる等、それに先行する諸々の説話や文化・芸能を取り込んでいる。本講義では、江戸歌舞伎の代表的作品（『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』など）を取り上げて、VTRを参照しながら、その構成・構造を考え、あわせて近世芸能文化の特色を検討する。

【講義計画】 歌舞伎の成立
歌舞伎の舞台
VTR『菅原伝授手習鑑』の鑑賞（C I）
VTR『義経千本桜』の鑑賞（C II）
それぞれの作品の構成
それに先行する説話・文学作品・文化の研究
歌舞伎特有の衣裳・セリフ廻し
歌舞伎の音楽
御園座の四月興行 「陽春大歌舞伎」夜の部の鑑賞と研究（C I）

御園座の十月興行 「吉例顔見世」夜の部の鑑賞と研究（C II）
近世芸能文化が表現するところの特色

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 『歌舞伎入門』（おうふう）・『歌舞伎のたのしみ』（北白川書房）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17725 17727	国文学特殊講義D I・D II	選	3・4	各2	前期 後期	助川徳是
他の科目との関連					他学科履修	可 重複履修 可

【副題】 夏目漱石の研究

【講義内容】 漱石の文学のうち、初期三部作から『明暗』までを分析、批評する。方法としては時間論・構造主義等を活用してオリジナルな分析を目指す。

【講義計画】 D I（前期）は『三四郎』『それから』『門』をこの順序にとりあげ分析する。
D II（後期）は『こころ』『道草』『明暗』を分析する。

【評価方法】 筆記試験による。出席も重視する。

【テキスト】 D I（前期）『三四郎』『それから』『門』（新潮文庫）
D II（後期）『こころ』『道草』『明暗』（新潮文庫）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17751 17755	漢文学特殊講義 I・II	選	3・4	各4	集中	杉山寛行
他の科目との関連					他学科履修	可 重複履修 可

【副題】 中国史伝文学の諸問題

【講義内容】 中国史伝文学の特質を、主として司馬遷『史記』を用い、その表現及び構造の側面から明らかにすることを目標とする。

【講義計画】 『史記』のうち、「項羽本紀」をその表現及び構造の側面から詳細に読みすすめる。その中で、歴史と文学、物語における様々な機能などのトピックスをとりあげ解明する。

【評価方法】 筆答試験による。

【テキスト】 中国古典選19『史記二』（朝日新聞社）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17761 17763	国文学講読A I・A II	選	3・4	各2	前期 後期	美濃部重克
他の科目との関連	国文学講読A I・A IIを連続して履修することが望ましい。				他学科履修	可 重複履修 可

【副題】 『閑居友』講読

【講義内容】 13世紀の前半に成立した説話集。撰関家出身の遁世者慶政上人が、さる高貴な女性からの依頼に応じて筆を執ったものと考えられている。小品ながら鎌倉時代を代表する草庵の文学である。同時

代あるいはそれ以前の多様な文学作品を受容しており、それを確かめることを通して、中世の文学のありようを如実に知ることができる。典拠とのつき合わせによる解釈を試みることで、作品理解のちからを涵養することをはかる。

- 【講義計画】 前期には上巻を、後期には下巻を講読の対象とする。
 ①『閑居友』についての概説。
 ②調査・発表方法の概説。
 ③口答発表・質疑応答。あらかじめ下調べを行ない発表資料を作成したうえで順番に担当する。
 ④レポート。

【評価方法】 担当発表の内容・資料・質疑など、及びレポート。

【テキスト】 美濃部重克校注『閑居友』〔中世の文学〕（三弥井書店）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17765 17767	国文学講読B I・B II	選	3・4	各2	前期 後期	大谷 俊太
他の科目との関連	国文学講読B I・B IIを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 策伝和尚送答控

【講義内容】 安楽庵策伝（寛永十九年<1662>没、89歳）は、京都誓願寺第五十五世法主。隠居して竹林院を営み、茶室安楽庵を建てた。寛永五年、京都所司代板倉重宗に献上された笑話集『醒睡笑』の編者として著名。その策伝が、親王・公家から連歌師・茶人に至るまで、当代の名士たちと交わした贈答の和歌・狂歌などを書き留めたものが『策伝和尚送答控』である。天理図書館所蔵の自筆草稿を講読し、その楽しい交遊のさまを味わう。

- 【講義計画】 1. 安楽庵策伝について
 2. 当代の和歌と狂歌について
 3. 調査・発表の方法について
 4. 口頭発表・質疑応答。予め下調べを行い、発表資料を作成した上で、順番に担当する。

【評価方法】 発表内容ならびに筆答試験。

【テキスト】 コピー配布

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
17771 17773	国文学講読C I・C II	選	3・4	各2	前期 後期	塩村 耕
他の科目との関連	国文学講読C I・C IIを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 『西鶴織留』

【講義内容】 西鶴遺稿集中の佳作を、影印版で精読する。西鶴没年の翌年に刊行された作品で、未推敲・未整理の原稿をかなり含んでいる。が、かえってその点に、巨匠の創作の秘訣をうかがうヒントが隠されているかもしれない。

- 【講義計画】 ・前期・後期で全章を通読する。
 ・当初は、くずし字読解力の養成を急ぐ。
 ・併せて版本書誌学や挿画の読み方について学び、さらに作品の背景となる社会史に関する興味を喚起して、作品の深い理解を目指す。

【評価方法】 基礎的な読解力は授業時に随時評価する。最終的には、作品中より自ら問題を設定し、その解決を目指す奮闘の跡をレポートしてもらう。

【テキスト】 吉田幸一編『影印本 西鶴織留』（笠間書院）¥824

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17775 17777	国文学講読D I・D II	選	3・4	各2	前期 後期	佐藤 房儀
他の科目との関連	国文学講読D I・D IIを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 近代詩研究

【講義内容】 詩は解釈と鑑賞によって面白味が生れてこなければならない。そのためには正しく読み、正しく味うことが大切である。一篇の詩にさまざまな理解が可能だと言われるのは間違っている。詩の書かれた状況を時代と作者に則して観察することによって、作品への正しい接しかたと読みが生まれるはずである。そのことにより詩への興味が一層ますますであろう。本講義においては、詩への理解と面白味を増すべく努力したいと願っている。

【講義計画】 D I（前期）は昭和前期（2～20年）までを講義する。日本に近代詩が発生して以来、急速に発展してきた。すでに大正年代には、一定の高みにまで到達した。明治15年を発生の時とすると、それはおどろくべき速さである。大正期から昭和期に移るにつれて、近代詩は多彩な展開を見せた。昭和期の多彩さを理解いただけるよう講義するつもりである。

D II（後期）はもう一度明治から昭和までの詩人達を再検討する。あまりにも多様であった近代詩の発展は、様々な意味を文学史の中で積み残している。それらを取り上げることによって、より深く近代詩の理解へと至るように努める。

【評価方法】 期末試験によって評価する。

【テキスト】 D I（前期）吉田精一著『日本近代詩鑑賞 ——昭和編』（創拓社）¥1,600
D II（後期）テキストとする善い本がない場合は、コピーによって勉強する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
17781 17783	国文学講読E I・E II	選	3・4	各2	前期 後期	細谷 博
他の科目との関連	国文学講読E I・E IIを連続して履修することが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 長篇を読む —— 漱石の〈問い〉、谷崎の〈答え〉とは何か——

【講義内容】 すぐれた長篇の書き手である漱石と谷崎の作品を読み、小説とは何かを考える。各篇の各章各部の確実な読み取りをつうじて、作品の趣向、特質、文学的価値について具体的、端的に考察する。漱石と谷崎作品のおもしろさ、わざとらしさ、自然さ、硬さ、柔らかさ、等々を突き合わせることによって興味深い比較対象を行いつつ考察する。小説世界の生き生きとしたひろがりのただ中で、あらためて各々自分の作品の読み方を確認してみよう。

どんな高尚な文学論も、実際の作品の〈読み〉とつながらなければ、人も自分も動かすものとはならない。他者による異なる読み方と対峙することによって、自己の読みの特性を自ら把握することを目指す。

【講義計画】 前期に漱石、後期には谷崎を読む。なるだけわかりやすく、具体的に語るつもり。作品の各部を指定し、順次読み進んでいく。ページ数で具体的に指摘するので、テキストは必ず指定のものを留意すること。

【評価方法】 各期末試験によって評価。

【テキスト】 夏目漱石『道草』（新潮文庫）
夏目漱石『明暗』（新潮文庫）
谷崎潤一郎『夢喰ふ虫』（新潮文庫）
谷崎潤一郎『細雪』（新潮文庫）
他